

事業評価シート

担当課長：環境安全課長

事業名	環境保健に関する調査研究の推進
上位施策名	環境保健対策
1 事業の概要	<p>近年、様々な環境因子がこれまでの公害問題にはなかった健康被害をもたらしていると指摘がなされ、社会問題となってきたがこれらの因果関係等は、科学的に明らかにされていない。</p> <p>本事業は、これら健康被害と環境因子のうち、 花粉症と大気汚染 いわゆる化学物質過敏症と環境要因 電磁波と各種疾病との関係 を解明しようとするものである。</p>
2 進捗状況	<p>花粉症と大気汚染との関係については、動物実験により高濃度のディーゼル排気微粒子(D E P)で花粉症様の症状を誘発する等の実験結果が得られるとともに、平成12年度の疫学調査で大気汚染物質とスギ花粉症との関連を示唆する結果が得られた。</p> <p>また、平成12年2月には「花粉症保健指導マニュアル」を作成し、全自治体や関連する保健医療機関に配布した(平成13年2月に更新)。</p> <p>いわゆる化学物質過敏症については、平成9年度に研究班を設置して研究を開始した。平成12年2月には「いわゆる化学物質過敏症は、多様な症状があり、その原因や発病の機構がいまだ不明確であり、一定の定義や客観的な診断基準がない」との報告がまとめられ、平成12年度からは、本報告書における指摘を踏まえ、二重盲検法や動物実験等を行い、本病態の解明を図っている。</p> <p>電磁波と各種疾病との関係については、文献調査等を行うとともに、家庭や職場など個人の日常生活の違いを考慮したきめ細かな個人ごとの電磁界暴露等について調査研究を実施している。</p>
3 評価	<p>花粉症対策については、環境省、厚生労働省、林野庁、気象庁からなる「スギ花粉症に関する関係省庁連絡会議」を設けて、各種対策に取り組んでいる。また、環境省では、調査研究結果を「花粉症保健指導マニュアル」やホームページに掲載するなどして広く公表しており、国民の利用頻度も高い。</p> <p>今後、こうした各省庁連携の取組を進めるとともに、花粉症発症・増悪に大気汚染が関与するリスクを詳細に評価する必要がある。</p> <p>いわゆる化学物質過敏症については、未解明な部分も多いが、現在進めている二重盲検法等の症例数が増えれば、ある程度の因果関係が解明されるなど、その病態の解明に向けた有用な知見が得られると考えられる。</p> <p>電磁波に関する本調査は、日本人のライフスタイルを勘案した暴露経路予測に基づいて暴露調査を実施しており、日本人に対する電磁波影響を調査する上で非常に有意義である。本調査の結果は、文部科学省の実施する暴露調査研究結果と併せてWHOに提出することとしており、2002年度を目途にWHOがまとめる予定の超低周波による健康影響の評価に貢献することが期待される。</p>
4 予算事項名	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染物質等が健康に及ぼす影響に関する総合的研究 ・環境汚染物質以外の因子に関する健康影響基礎調査 ・環境中微量化学物質による健康影響等調査
5 対応副施策等	